

競争を免れた市場のアウトローである。では、高すぎる品物なら別の品物で我慢すれば良い。ところが、学術誌は代器が効かない。掲載される研究成果はそれが世界で唯一だからその価値があり、それを掲載するからこそ、その学術誌に価値がある。つまり電子ジャーナル業界は、「生産者相互が商品をいかに研究所等によるインターレースを担うべきである。また、論文作成者が論文掲載によって求めるのは「金銭」ではなく「名」なのでから、著者の「名誉」と「権利」が確保されたなら、本来は瞬時に無償で、世界中の研究成果が世界中の人々によって共有されるのが理想である。電子媒体こそ、機関リポジトリ（大学・研究者等によるインターレース）を止められないのは、それが研究者の評価システムに深く食い込んでいるからだ。研究者の評価は、良質の論文をいかに多く生み出しているかによって決まる。それによって就職も、より良いポストへの移動も、科研費や各種補助金の獲得も左右される。したがって論文の鮮き放つべき時なのだ。